

今年の漢字「節」

越谷北高等学校長 下山 忍

明けましておめでとうございます。2、3年生の中には覚えている人もいると思いますが、昨年の3学期始業式では、「正月はなぜめでたいのか」というお話をしました。詳しい説明は省略しますが、新しい年になると、年神さまがやって来て、私たちに、新しいパワーを授けてくれるというのが、我が国古来のお正月の考え方です。新年になり、新しいパワーをもらったわけですから、元気に平成27年、2015年を踏み出しましょう。

さて、今日は「今年の漢字」についてお話したいと思います。「今年の漢字」というと、京都の清水寺で、森貫主が大きな熊野筆を持ち、巨大な和紙に漢字1文字を一気に書き上げる映像を思い浮かべる人も多いと思います。毎年12月12日に発表されるので、新年ではなく、暮れの風物詩と言えます。昨年は「税」でした。17年ぶりの消費税増税を反映した漢字だったと思いました。消費税増税は、国の財政再建や国民生活への影響など、とても大きなテーマですが、「税」という漢字は、ちょっと直接的すぎるような気がしていました。

そんなことを思っていましたら、もう1つ別の「今年の漢字」があるということを知りました。こちらは、兵庫県姫路市の書写山円教寺というお寺で、年が改まる元旦の午前0時に書き上げるものでした。正式には「除夜・新春、夢の書」というそうです。NHKの紅白歌合戦が終わった後の「行く年来る年」で紹介していたのでテレビで見た人もいたことと思います。こちらは、「節（ふし）」あるいは「節（せつ）」という漢字でした。

「節」は、もともとは、竹の節（ふし）から来ている文字で、それで「たけかんむり」がついています。国語辞典には「間断なく流れる一生のうち、何かとの出会いや、何かの行事によって記憶される、幅をもった時間」という意味もありました。清水寺には大変失礼ですが、「税」よりも「節」の方が、いろいろな事を考えさせてくれる漢字だと思いました。

「節」という文字を書き上げた書写山円教寺の大樹長吏は、「今年は、終戦から70年、阪神淡路大震災から20年の節目の年である。この節目とは、過ぎた何年かを振り返り、気づいたことをこれから役立てる大切な機会である。」と言われていました。

終戦から70年と言いますが、70年前というと、生徒の皆さんはもとより、私を含め、先生方も生まれる前のこととなります。しかし、そのことに思いを馳せ、しっかりと考えることは出来ます。昨年、2年生は修学旅行で長崎を訪れました。3年生は、一昨年、広島を訪れました。そして、1年生は今年、鹿児島県の知覧を訪れます。こうした体験を活かしながら、「節目」にあたって、先の大戦（太平洋戦争）がいかに未曾有の惨禍をもたらし、人々の文化と生活を破壊したかということ想起し、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚する機会にさせていただきたいと考えています。

また、20年前の阪神淡路大震災も生徒の皆さんの生まれる前の話ですが、大都市を襲っ

た震度7の直下型地震でした。ビルや建物の倒壊による被害が多く、6000人以上の人の命が奪われています。昨年12月の防災訓練で申し上げましたが、阪神淡路大震災や4年前の東日本大震災を想起して、防災意識を高め、いざというときの助け合いの精神をもって、自分や家族、周りの人々の命と安全を守る、ということを再認識していただきたい、と考えています。

さて、「1月は居ぬ(行く)、2月は逃げる、3月は去る」ということわざがあります。(1月は行ってしまふ、2月は逃げてしまふ、3月は去ってしまふ)という意味です。1月はお正月で心楽しいうちに慌ただしく過ぎ、2月は普通の月よりも短い。3月は年度末なので、やらなければならないことが多く、あっという間に過ぎてしまふ。一種の言葉遊びのようですが、学校にとっても3学期は、1学期・2学期より1月少ないこともあって、あっという間に終わってしまうということを例年感じます。

学校生活において、「学期」というのも1つの「節目」になります。当然、「学年」もそうです。3年生は入試までカウントダウン。これまで団体戦で挑んできた戦いも、最後の追い込みになります。悔いの残らぬよう、最後まで手を抜かずに進んでいってください。そして、その先にある学問との出会いも想起してください。

2年生・1年生はそれぞれ進級します。2年生は、本校では、「修学旅行が終われば受験生」ということで頑張っていると思いますが、あと3か月で最上級生になります。もし、その意識が不足している人がいたら、この「節目」に臨んで気を引き締めてください。あっという間の1年間になると思います。

1年生は、北高にも十分慣れたと思いますが、あと3か月で中堅学年として本校を支える存在になります。4月には後輩が入学して来ます。皆さんもそうであったように、後輩は皆さんの起ち居振る舞いを見て「北高」を感じます。それが「伝統」ということなのだろうと思っています。素晴らしい「伝統」の継承者になってください。

最後に、時間は誰にでも等しく与えられているものですが、限りあるものです。何かを成し遂げようとするとき、どれだけ時間を有効活用できるかにかかっています。限りある時間を大切に、決して無駄にすることのないように。

3学期は、自分のやるべきことをしっかりと果たしてください。

(平成26年度第3学期始業式講話より)